

本市が目指す将来象にふさわしい家庭ごみ収集方式の検討に向けたロードマップ

現在のごみ収集の始まり

1969年（昭和44年）からごみ収集の一部民間委託を開始し、ステーション方式による安定的な収集運搬体制を構築・維持

その後の社会変化

ごみ減量・資源循環
の必要性の高まり

急速な人口減少と少子高齢化の進展

ライフスタイルの多様化

「河内長野に住みたい、住み続けたい」と
思えるまちづくりや、ぬくもりのある地域
社会の構築を求める市民意識の顕在化

現在、ごみ収集が直面する課題

- 高齢化によるごみ出し困難者の増加
- ステーション方式の排出ルール順守が難しい世帯（共働き・子育て等）の出現 等
- 製品プラスチックなど、ごみ処理に要請される新たな分別収集・リサイクル等への対応

「河内長野に住みたい、住み続けたい」まちづくりのため
現在の課題に対応した新たなごみ収集方式の検討が必要

これまでに実施した調査**令和2年度**

- ごみに関する市民アンケート調査の中で一部調査
 - ・将来のごみ収集方式について
 - 複数の方式への支持が拮抗していた

令和3年度

- 家庭ごみ戸別収集方式検討調査
 - ・昨年度調査を受け、費用増加の大きい戸別収集について調査
 - ・ごみ収集作業量や委託費等の試算

令和4年度

- 本審議会で、今後の家庭ごみ収集方式について検討し、課題解決の方法等を探る
- 「戸別収集」だけでなく、「ふれあい収集の充実」、「ごみステーションの増設」など様々な手法を対象

令和4年度（実施予定）

- 住みよいまちづくりを目指し、ごみ収集すべきことを調査
 - ・自治会長アンケート調査
 - ・他都市事例調査

令和5年度

- 市において令和6年度以降の取組みに向けた準備・調整
（対応可能な取組みは令和6年度を待たずに実施）

令和6年度以降

- 地域での対話のきっかけづくりにもつなげる新たなごみ収集方式の運用（自治会長アンケート調査結果を踏まえた実証実験の実施等を含む）